



楽しそうに植樹する家族

平成23年に洞爺湖町と「ほっかいどう企業の森林づくり協定」を締結して

いるNECソリューションイノベータ北海道支社（佐々木浩一支社長）が、6月13日、泉にある町有地で、同社の社員、家族ら約90人が参加して、アオダモの苗木400本を植樹しました。

同支社は、協定締結後「見晴らしの森」と名付けた町有地に、毎年アオダモとアカエゾマツを交互に400本ずつ植樹。5年間の当初目標2,000本を達成し、今年が最後の植樹となりました。参加した社員や家族らは、雨上りの斜面に「大きく育つことを願って」一本一本丁寧に植えていました。

NECグループ泉の所有地で植樹 社員ら90人で400本

郷土の歴史を学習 史跡巡りウォークラリー

郷土の歴史を学ぶ文化財ウォークラリー（教育委員会主催）が、6月13日行われ、ノルディックウォーキング愛好者やゲンキッズの児童など、約40人が参加しました。

今回のテーマは、清水地区の文化財。役場前をスタートした参加者は、最初の訪問地虻田神社をめざしてウォーキング。その後各地点で三谷学芸員の説明を聞きながら、発電所タンク、虻田遊郭跡、清水遺跡、亮



三谷学芸員の説明を聞く参加者たち

昌寺、大磯馬頭観音碑、旧虻田村役場を順番に巡り、スタート地点の役場に戻りました。

人権の花開け！ 温泉小学校に花の苗寄贈

室蘭人権擁護委員協議会が、6月14日洞爺湖温泉小学校を訪問し、「人権の花」を贈りました。

花の世話をしながら、優しい気持ちを育んでもらおうと同協議会が実施している取り組みです。

当日は、藤原札幌法務局室蘭支局長と洞爺湖町の5人の人権擁護委員が同校を訪問し、サルビア、ニチニチソウ、マーガレットなど150鉢をプレゼントしました。最後に児童会副会長の緒方咲月さん（5年）が



贈呈された「人権の花」を植える児童たち

「大切にしていきたいと思います」と感謝の言葉を述べました。



植樹後に記念撮影するななかまどの会の皆さん

ボランティアサークルななかまどの会（坂井千枝会長、会員8人）が、6月23日、洞爺湖温泉

公園にヤマザクラの苗木6本を植樹しました。

同会が年1回長年行っている行事で、3年前からは洞爺湖が一望できる同公園で実施してきました。

当日は、会員5人が訪れ、「もう一度みんなで花見ができるようになってほしい」とかつてのサクラの名所の復活を期待していました。

温泉街にヤマザクラ6本植樹 ななかまどの会



まちのわだい